

つくることは生きること

ー11年目のハッピードールプロジェクトー

「今が一番つらい時だから・・・子どもたちのストレスが限界と聞くから・・・熊本の支援に行ってほしい・・・」今年発生した熊本地震からまもなく、そんな要請が東北の被災者たちから寄せられるようになった。自分たちも復興途上で先が見えていないというのに、その痛みを知るからこそその思いやりに強く心動かされ、急ぎ熊本へ向かった。

震災の爪痕は本当に痛ましく、胸がつぶれる思いだったが、避難所の片隅でハッピードールを始めれば、住処を失った子どもたちや人々がそぞろに集まり、それぞれの願いや希望をかたちにしながら心寄せ合い、いつのまにか笑顔が生まれていた。そしてそこで、自分たちの再建と同時に、東北の復興を願うメッセージを温かい思いで聴いていた。

児童クラブでは、自分のつくったハッピードールを病院の子どもたちへ贈ってほしい!と次々に持ち寄る子どもたちの思いがけない行動に驚き、優しい心に感動していた。

ハッピードールという、このささやかなものづくりの輪は、病院内外の心をつなぎ、東北や熊本が互いを思いやるきっかけを生み、あらゆるボーダーラインを軽やかに乗り越え、心を柔らかくつなぐ、そんな力を秘めているのかもしれないと改めて感じた11年目だった。

体が不自由になって初めてつくれたハッピードールに涙する男性患者。不調で一時中断しながらも何とか最後まで仕上げた作品に喜び輝く少女。震災以降、何も手につかなくなったという親子が初めて夢中になれたハッピードールづくり。つくることは無から何かを生み出すことであり、生み出すことは一歩踏み出すことである。つくることの小さな一歩一歩が明日の希望につながるに違いない!と、ひとりひとりの一歩から感じた。

みんなそれぞれ一生懸命につくり、生きて、闘っている。
つくることは生きることである。

Founder of Happy Doll Project
高橋雅子

